

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-68720

(43)公開日 平成 5 年(1993) 9 月17 日

(51)Int.Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 0 J 10/08

7312-3D

B 6 0 J 5/ 04

C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21)出願番号

実願平4-19126

(22)出願日

平成 4 年(1992) 2 月28 日

(71)出願人 000196107

西川ゴム工業株式会社

広島県広島市西区三篠町 2 丁目 2 番 8 号

(72)考案者 岩本 篤治

広島市西区三篠町 2 丁目 2 番 8 号西川ゴム
工業株式会社内

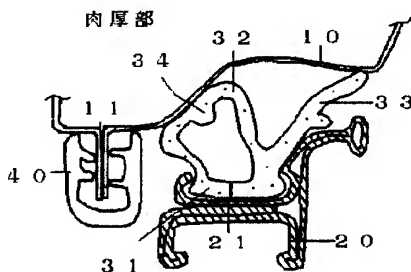
(74)代理人 弁理士 古田 剛啓

(54)【考案の名称】 ウェザーストリップ

(57)【要約】

【目的】 中空シール部のボディ開口縁のルーフ部に弾接する部分でしわが生じ難くなり、たとえ生じたとしてもルーフ部とのシールラインが切れるようなことはなく、従って水漏れを生じることもないウェザーストリップを提供する。

【構成】 リアドア 2 0 にリテーナー 2 1 を介して取付ける基底部 3 1 にボディ開口縁 1 0 に弾接する中空シール部 3 2 並びにシールリップ 3 3 を一体に結合してなるウェザーストリップ 3 0 のコーナー型成形部であって、特に中空シール部 3 2 の上端で且つボディ開口縁 1 0 のルーフ部に弾接する部分を他の部分に対して肉厚にしてある。



1 8

1 9

【実用新案登録請求の範囲】

リアドア（20）にリデナー（21）を介して取付ける基部（31）にボディ開口縁（10）に弾接する中空シール部（32）並びにシールリップ（33）を結合してなるウエザーストリップ（30）のコーナー型成形部において、中空シール部（32）の上端で且つボディ開口縁（10）のルーフ部に弾接する部分に他の部分よりも肉厚な肉厚部（34）を形成してなるウエザーストリップ。

【請求項1】

【図面の簡単な説明】

【図1】左リアドアの正面図である。

【図2】図1のT部における従来のウエザーストリップの中空部にしわの生じた状態を示す斜視図である。

【図3】従来例の中空部にしわの生じた他の状態を示す斜視図である。

【図4】図3のA-A断面図である。

【図5】従来例をドアに取付けた状態を示す断面図である。

【図6】図1のT部における本考案に係るウエザーストリップの実施例を示す斜視図である。

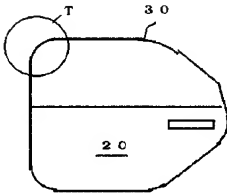
* 【図7】図6のB-B断面図である。

【図8】本考案の実施例をドアに取付けた状態を示す断面図である。

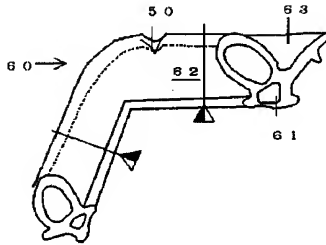
【符号の説明】

- 10 ボディ
- 11 フランジ
- 18 車内側
- 19 車外側
- 20 リデナー
- 30 ウエザーストリップ
- 31 基部
- 32 中空シール部
- 33 シールリップ
- 34 弾接部分
- 40 トリム
- 50 しわ
- 60 ウエザーストリップ
- 61 基部
- 62 中空シール部
- 63 シールリップ

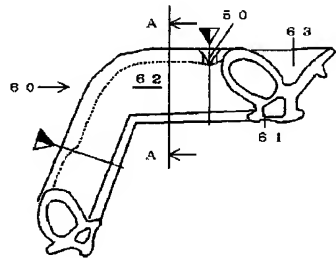
【図1】



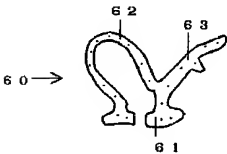
【図2】



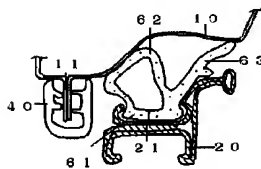
【図3】



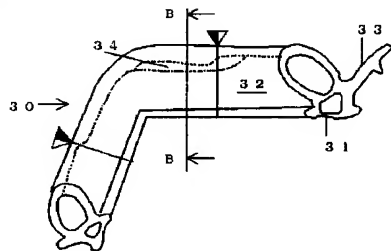
【図4】



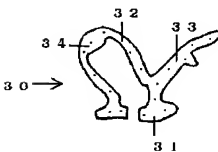
【図5】



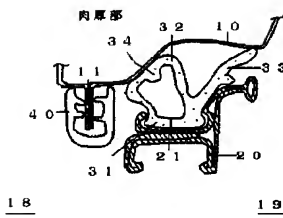
【図6】



【図7】



【図8】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、リアドアに取付けるウエザーストリップのコーナー型成形部の構造の改良に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

図1乃至図5を参考にして説明する。図中に二等辺三角形の頂角から下した中線的一方を塗潰した記号を使用しているが、これは塗潰し側が型成形部を表わし、非塗潰し側が押出成形部を表わしている。18は車内側、19は車外側である。従来、自動車のリアドア20に取付けるウエザーストリップ60のコーナー型成形部として、ドア20にリテーナー21を介して取付ける基底部61にボディ開口縁10に弾接する中空シール部62並びにシールリップ63を一体に結合したものである。

【0003】

しかしながら、上記ウエザーストリップ60のコーナー型成形部は、ドア20を閉じた時、図2及び図3に示すように、ボディ開口縁10のルーフ部に弾接する中空シール部62にしわ50を生じ、ルーフ部とのシールラインが切れて、水漏れの原因となる恐れがあり、その対策としてそこにパッドを詰める必要がある。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

従来の自動車のリアドアに取付けるウエザーストリップ60のコーナー型成形部は、ボディ開口縁10のルーフ部に弾接する中空シール部62にしわ50を生じ、ルーフ部とのシールラインが切れて、水漏れの原因となることである。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

図1・図6乃至図8を参考にして説明する。本考案は、リアドア20にリテーナー21を介して取付ける基底部31にボディ開口縁10に弾接する中空シール

部32並びにシールリップ33を一体に結合してなるウエザーストリップ30のコーナー型成形部であって、特に中空シール部32の上端で且つボディ開口縁10のルーフ部に弾接する部分を他の部分よりも肉厚な肉厚部34に形成してある。

【0006】

【実施例】

実施例について説明すると、10は車のボディ、20はボディの開口縁10に取付けたリアドア、30はそのリアドア20にリテーナー21を介して取付けるウエザーストリップであって、そのコーナー型成形部は、リテーナー21に取付ける基底部31に、ボディ開口縁10に弾接する中空シール部32並びにシールリップ33を一体に結合したものであって、特にドア20を閉じた時、しわの生じ易い中空シール部32の上端で且つボディ開口縁10のルーフ部に弾接する部分に他の部分よりも肉厚な肉厚部34を形成してある。なお、肉厚にする弾接部分は、成形外観（ガスキズ等の発生）を考えると、パーティングライン付近であって、しかもシールラインの中央付近が好ましい。また、11はボディ開口縁10に垂設したフランジ、40はそのフランジ11に嵌着したトリムである。

【0007】

作用について説明すると、上記のようにドア20を閉じた時、しわの生じ易い中空シール部32の上端で且つボディ開口縁10のルーフ部に弾接する部分を他の部分に対して肉厚にすることにより、しわが生じ難くなり、たとえ生じたとしてもルーフ部とのシールラインが切れることがなく、従って水漏れすることはない。

【0008】

【考案の効果】

本考案は以上のように構成されるため、外観が損なわれることなく、しかも中空シール部32の上端で且つボディ開口縁10のルーフ部に弾接する部分でしわが生じ難くなり、たとえ生じたとしてもルーフ部とのシールラインが切れるようなことはなく、従って水漏れを生じることもない。